

横田英史の 書籍紹介コーナー



分析者のためのデータ解釈学入門

～データの本質をとらえる技術～

江崎貴裕

ソシム 2,860円(税込)

データサイエンスが気になって仕方がないビジネスパーソンをターゲットにした教科書。「データの性質」「データの分析」「データの解釈・活用」について、それぞれ1章を割いて押さえておくべき基礎知識を解説する。

第1部の「データの性質に関する基礎知識」と第2部の「データの分析に関する基礎知識」は一般教養的な色彩が濃い。本書の特徴はデータの分析、解釈、活用の各段階で陥りやすい間違いの数々を事例を交えて解説しているところである。取得、分析、解釈、利用の勘所について、なぜ重要なのか、どのようなアイデアに基づいているのか、互いにどういった関係にあるのか、データ分析の限界などについて、表面的な解説から一歩踏み込んでのも特徴の一つとして挙げられる。工夫された図版や平易な文章、豊富な索引など初学者向けに配慮されている。

オードリー・タン

～デジタルとAIの未来を語る～

オードリー・タン、

プレジデント書籍編集チーム・編集
プレジデント社 1,980円(税込)

このところオンラインセミナーで引っ張りだこになっている、台湾のオードリー・タン デジタル担当大臣の著作。プレジデント社の編集者が20時間超のインタビュー

を単行本にまとめた。オードリー・タンはオープンソースでマスク配布のシステム「マスクマップ」を構築し、台湾市民に混乱なくマスクを行き渡らせたことで、広く知られるようになった人物である。

本書では、AIを含むITの現在と未来に対する見解、政治哲学、民主主義への思い、生い立ち、日本へのメッセージなどを綴っている。マスクマップ誕生までの経緯を述べた部分は読み応えがある。台湾の学生と市民らが立法院を占拠した「ひまわり学生運動」や台湾最大のオープンソースコミュニティ「g0v(ガブゼロ)」の存在などが背景にあり、台湾社会・行政のIT化やオープン化が付け焼き刃でないことが分かる。

オンライン・ファースト

～コロナ禍で進展した情報社会を元に戻さないために～

東京大学情報理工学系研究科
東京大学出版会 2,970円(税込)

東京大学情報理工学系研究科の教授が、オムニバス形式で自らの研究を紹介した書。研究内容をざっと知るのに向く。ポストコロナ時代に役立ちそうな研究もあり、頑張って頂きたい。

本書は大きく2部構成をとり、巻末には「ポストコロナの新たな情報化社会へ向けての提言」を掲げる。巻末の冒頭は的確な指摘を掲げておりなかなか読ませる。第1部の「これからの社会とIT」で全体像を示し、第2部の「ITでデザインするポストコロナ社会」で個別の研究を明らかにする。

第1部では、江崎浩の「インターネットのしくみでつくる社会～つながりによる革新～」がユニークな視点を提供しており読み応えがある。第2部では、非接触インターフェース(VR)、データサイエンスに基づくソーシャルディスタンス確保、個人情報管理、テレワークなどをカバーする。

TOOLS AND WEAPONS

(ツール・アンド・ウェポン)

～誰がテクノロジーの暴走を止めるのか～

ブラッド・スミス、キャロル・アン・ブラウン、
斎藤栄一郎・訳
プレジデント社 2,750円(税込)

テクノロジーが政治や社会に与える影響力を増しているなか、テクノロジー企業や業界はどのように身を処すべきかを、米マイクロソフトのPresidentでCCO(Chief Compliance Officer)が提示した書。利便性と同時に危険と背中合わせの情報化時代に生きる我々にとって、時宜を得た良書である。

取り上げるテーマは、AIと倫理、AIと労働者、テクノロジーと治安(監視)、デジタルデバインド、プライバシー(GDPR)、オープンソースなど多岐にわたる。それぞれに対する著者の倫理的・哲学的な考察や基本姿勢は示唆に富み、強く共感できる。AIに関するスタンスは興味深い。マイクロソフトは独占禁止法、プライバシー規制(GDPR)、知的財産権などで闘ってきたが、哲学のレベルまで掘り下げなければならないAIの倫理的問題に比べればはるかに易しかったという。

横田 英史 (yokota@et-lab.biz)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現xTECH)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年10月退社。2018年11月ETラボ代表、2019年6月当協会理事、現在に至る。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する団体の見解とは関係がありません。

